

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|-----------------------|
| 事業所番号 | 4090500119 |
| 法人名 | 医療法人 かん養生クリニック |
| 事業所名 | グループホーム こもれびⅡ |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉南区蜷田若園3丁目4-9 |
| 自己評価作成日 | 平成25年8月20日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|---------|-------------|
| 評価機関名 | 株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号 | | |
| 訪問調査日 | 平成25年10月4日 | 評価結果確定日 | 平成25年12月12日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、閑静な住宅街にあり、近くには川・公園があり落ち着いた環境に恵まれた場所にあります。入居者様は、無理の無い以前と変わらない生活が送れるよう一人一人の希望にあった活動やリハビリを取り入れています。入居者様と職員は同じ場所で生活を営む家族と思い、少しでも身近に感じて頂ける様にする事をモットーにしています。又、隣接の『こもれび』と合同レクリエーションを楽しんだり、お互い行き来出来、気分転換や楽しみを感じて頂ける様努めております。夜間対応として介護面の緊急対応の充実。医療面では、母体である(医)かん養生クリニックといつでも連絡が取れるよう、24時間緊急連絡体制にて対応しています。週1回、医師による体調管理も行い医療面からのサポートも充実しており、より良い生活が送れるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事や、そのプロセスの楽しみ、排泄ケア、入浴支援等から、細やかな配慮や介護力の発揮がうかがえる。また、専門職としての研鑽とともに、日常の中で、入居者、家族との信頼関係や、普通の「暮らし」や「感覚」を大切に捉えながら、日々の関わりを積み重ねている。もの忘れ外来が設置されている母体医療法人との密な連携は、日常の健康管理や24時間の連絡体制等、本人、家族にとって大きな安心感となっている。また、隣接して同法人4事業所が位置していることから、運営推進会議や日常的な交流等にて連携が発揮され、特に今年度は、地域や消防署とともに災害対策の充実を図っている。本人本位に基づくサービスの提供は、介護計画の内容からもうかがえ、今後も職員育成に取り組みながら、地域拠点としての存在の高まりが大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|--|
| 58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

| 自己評価および外部評価結果 | | | | |
|-------------------|-----|---|--|--|
| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 |
| | | | 実践状況 | 実践状況 |
| I.理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員一同で意見を出し合い作った地域密着サービスの意義を踏まえた目標を理念とし、実践に生かしている。 | 地域密着型サービスとしての理念は、職員が意見を出し合い、作成されている。カンファレンスの際には、立ち戻る原点として位置付け、実践に結び付けるよう取り組んでいる。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 散歩や清掃活動の際、挨拶を積極的にするよう心がけている。又、地域活動で行われる行事への参加も心がけている。 | 日常の中で、外出時の挨拶や職員が毎週水曜日に周辺の道路愛護活動に取り組むことで、自然体での交流を積み重ねている。運営推進会議には地域からの参加も多く、災害対策等にて連携を積み重ねている。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議で、実際のケアの報告を行いホームで行うイベント等に参加していただく事で認知症の理解を得るようにしている。又、入所の検討をしている方の相談を受ける等している。 | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | レジメに写真を添付し、実際の様子を報告し、現状を把握して頂ける様努めている。談話形式ではあるも、貴重な意見と受け止め、職員ミーティングの際職員に伝え、サービスの向上になるよう心がけている。 | 運営推進会議は、隣接する同法人事業の合同開催となり、家族、町内会長、老人会会長、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て開催されている。それぞれの事業所の家族が参加する機会があり、議事録は玄関に掲示されている。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議に、地域包括センター職員の参加により、事業所の取り組みを伝え、関係を築くよう努めている。又、グループホーム協議会主催の行政との意見交換を通し、関係を築くようにしている。 | 運営推進会議には、地域包括支援センター職員の参加を得ている。運営状況について、率直に意見交換を行いながら、サービスの質の確保について指導を受けている。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 介護保険法の指定基準における禁止の対象を十分理解し、ケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、運営推進会議で検討し、理解を得て午前中開放していたが、現在、予測されるリスクが大きい為、安全面を最優先し施錠をしているが、再度検討していく予定。 | 年間研修計画の中に位置付け、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為についてあらかじめ確認し、職員の意識を高めている。玄関の施錠については、運営推進会議等にて検討を行ったり、環境整備の工夫や外出機会の拡大、アセスメントの充実に取り組み、常態化とならないよう、また抑圧感の軽減に向けた配慮を行っている。今後も課題として捉えながら、より良いケアについて検討を行っていく意向である。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | グループホーム委員会とし、月1回研修の機会を設けている。又、情報を交換する事で、再度認識を深めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在、成年後見人を制度を利用されている方がおり、情報提供を行っている。又、グループホーム委員会の中で研修を行い学ぶ機会を設け職員の理解を深める。 | 法人のグループホーム委員会の中で、年間研修計画の中に位置付け、権利擁護に関する制度について学ぶ機会を設けている。現在、制度を活用している方もおり、関係者との連携を図りながら、活用に向けた支援を行える体制を整えている。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時・解約時には、十分時間をかけ納得して預ける様努めている。又、入居者後に入居後に疑問に感じた事についても、その都度納得して頂く様努めている。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者様・ご家族様が意見、要望を言いやすい様な関係作り及び、雰囲気を作る様心がけ、公的な苦情窓口やご意見箱の利用についても説明している。又、法人主催の「つどい」では、家族同士の交流も図っている。 | 各担当者による「こもれび通信」にて、健康状態や日々の様子、行事の予定・報告を行い、家族との情報共有に努めている。日常の中でコミュニケーションを深めながら、意見や要望の収集に努めている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 2ヶ月に1回開催される責任者会議にて、各事業所の管理者を通じ、職員の意見や提案などを聞く機会を設けている。 | 法人として、責任者会議や福祉部門の会議が交互に毎月実施され、また、日常の業務やグループホーム委員会を通じて、職員の意見や提案を検討する機会を設けている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個々にスキルアップや目標を持ち外部研修の希望には、勤務の調整を行っている。又、福利厚生の一部として費用についても支援している。 | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員の採用にあたっては、年齢・性別等制限は設けておらず、個々のやる気を重視している。職員同士お互いを尊重し、得意分野が業務に生かされ、充実した勤務に当たれるよう配慮している。 | 職員の採用にあたり、年齢や性別による排除は行っていない。入居者本位のサービス提供を重視し、職員の育成に努めている。調理師の資格を持つ職員や、パソコン業務に詳しい職員等、それぞれの得意分野を發揮してもらっている。外部研修を案内し、積極的にサポートを行い、個々のスキルアップを支援している。 | |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 理念の中に『個人個人を尊重し尊厳を守ります』とか掲げている。理念の共有・実践により人権教育に繋げていくよう取り組んでいる。 | 精神科領域を中心とする医療を提供する母体法人として、本人本位の支援を念頭に置き、職員育成を図っている。理念の共有や、研修、カンファレンス等を通じて、職員の共通認識を育んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新規採用時の研修については、経験等に合わせ機関や内容を変更している。内部研修として毎月グループホーム委員会とし学ぶ機会を設けている。外部研修へは、参加しやすいよう勤務日等配慮し、費用についても支援している。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 事業所間情報交流会への参加や、法人内勉強会に参加し、向上するよう努めている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居するまでに、ご本人とお会いし、要望や不安等情報収集するようにしている。お一人お一人に合わせ柔軟な支援に努め安心して入居出来るよう取り組んでいる。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居するまでに、ご家族より要望や不安等情報収集を行なうよう努めている。ご本人の前で話づらい内容は、日を改めるか、電話で対応し、安心して入居出来るよう努めている。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご家族の状況や現状のサービス内容・困っている問題等情報収集を行い、ご家族の了解を得て、居宅・医療関係者の意見を求め対応している。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日々の生活の中で、コミュニケーションを大切にし、洗濯・料理・食事を共に行い、趣味や特技を一緒に楽しむ事で、関係を築いている。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日々の生活の中での出来事の報告を行い、ご本人の為にどうしたらいいのか、意向を伺うように努めている。相談しながら、共に支えて行く関係を築いている。 | | |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居の際、出来る限り慣染みのある物をお持ち頂くようお願いをしている。又、馴染みの方が気軽に来所して頂ける様な場の提供が出来るように努めている。 | 家族はもとより、知人や自宅の近所の方が、気軽に来訪できる雰囲気づくりに努めていることがうかがえる。お盆や正月、家族旅行の実現等、家族との連携を大切にしながら、これまでの関係性の継続を支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日頃の表情や関係性の把握に努めている。必要に応じ、職員があいだに入り、会話の橋渡しをする等努めている。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所先へ面会・お見舞いへ行かせていただき継続した関わりが保てるよう努めている。電話にて現状の報告をしてくださることもある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | センター方式を活用し、ご本人・ご家族の思いや意向が、ホームの暮らしの中で反映されるよう、日々の会話や行動から把握し、職員間で共有出来るよう努めている。 | 入居時やセンター方式の活用を通じて、認知症ケアの根拠となる情報収集が行われている。個別のケース記録は、日常の心身の状況がわかりやすく記載されており、職員間での共有に努めている。本人、家族の思いや意向は、介護計画にも反映され、実践に結び付けている。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居に当たり、事前に情報収集を行い、入居後も個々の会話の中から生活歴・生活環境の把握に努め、職員間で共有出来るように努めている。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の生活の様子や会話等で心身の状況の把握に努め、変化が見られた際は、申し送り、記録に残すとうし、職員全員が把握するように努めている。 | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人、ご家族の意向を大切に、ケアマネージメントを行い、月1回のミーティング・モニタリングを通し見直し、検討を行い、現状に即した介護計画になるよう作成している。 | 各担当者の意見を集約し、センター方式を用いた情報収集が行われ、定期的に更新されている。本人本位の視点が明確であり、家族関係機能の活用や認知症ケアの視点も盛り込まれ、日々の実践に結び付けている。毎月のミーティングやモニタリングにて、現状の確認や見直しの必要性について検討している。 | |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子については、個別のケース記録に記入し、変化については業務日誌に記入し状況の把握・共有が出来よう努めている。必要があれば介護計画の見直しを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | さまざまなニーズに対し、ご家族とも相談しながら対応するよう努め、取り組んでいる。又、母体の支援・応援により、多機能的に対応している。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域で行われる夏祭りに参加させていただいたり、ボランティアの来所や、消防訓練に消防署の協力を得ること等で、社会との繋がりを持ち地域に根付いた生活ができるよう支援している。 | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時にかかりつけ医について確認している。又、母体のかん養生クリニックより、週1回の往診が有り、医師の支持のもと、健康管理が行われている。希望があれば歯科往診も可能であり、協力医療機関も含め、適切な医療が受けられるよう支援している。 | もの忘れ外来やデイケアが設置されている母体法人との密な連携が図られ、定期的に訪問診療が実施されている。また、24時間体制で、日常を把握している看護師との連携が図られ看護記録も整備される等、健康管理や早期の対応に結び付けている。複数の協力医療機関や、希望や必要に応じて専門医との連携も図り、適切な医療を受けられるよう支援している。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 母体であるかん養生クリニックより週2時間看護師が勤務しており、健康管理や状況把握をしている。又、気づき等相談し支持を仰ぐことが出来、適切な看護を受けられるよう支援している。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時、慣れ染みの物を使って頂ける様配慮している。医療連携の看護師の協力も得て、早期退院に向け病院関係者との情報交換を蜜にしている。又、退院時には退院前カンファを得て、退院を迎えている。 | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期に向けた指針を示し、ご家族の同意を得ている。現在事例は無いが、ご家族の希望を把握するためアンケート調査を行っている。事業所として出来る事出来ない事を把握し、主治医・ご家族との話し合いにて方針を共有する。 | 入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について事業所としての方針を示し、アンケートによる意向確認を行っている。状況の変化に伴い、家族や医療関係者、職員との話し合いを重ね、方針を共有している。事業所2階には、家族宿泊用の部屋も用意されている。 | |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時・事故発生時のマニュアルを作成し、すぐに確認出来る場所に貼ってある。又、救急救命の研修を行い日常的に意識が持てるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、昼夜を想定した避難訓練を同法人の4施設合同で行っている。又、地震、水害等の災害時についても身に付け、緊急連絡網の見直しを行っている。緊急時には、町内会長や、民生委員の協力体制も出来ている。 | 隣接する同法人4事業所合同で、年2回、避難訓練を実施しており、消防署の立ち会いも得ている。夜間の連携の確認や連絡体制の再構築に取り組み、緊急連絡網の作成や訓練時には、町内会長、及び民生委員の方の協力を得ている。運営推進会議の中で、消防より話をさせて頂いたり、自治会としての体制整備について検討が行われている。 | |
| Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者の人権を尊重しプライバシーの保護には、十分配慮し、状況に応じた声かけや、対応に努めている。 | プライバシー保護や倫理、認知症ケア等の研修により、職員の意識を高めながら、信頼関係を築けるよう関わりを重ね、「普通感覚」を大切に言葉かけや対応を心掛けている。ある程度のスケジュールは設定しているが、個別の時間の流れやリズムを尊重し、柔軟に対応している。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者一人一人に合わせた声かけ、対応を心掛け、意思を尊重できるように努めている。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本の一日のスケジュールは設定しているが、お一人お一人のペースに合わせ、可能な限り希望に添えるように支援している。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その日に着る洋服をご本人の希望を優先し、一緒に選んだり、定期的に美容師さんに来所していただき、カットだけでなくパーマやカラーも希望に添えるように支援している。 | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備、味付け、盛り付け、配膳、後片付け等個々に合わせ、お手伝いをさせていただいている。入居者と職員は、同じテーブルを囲み会話を楽しみながら食事をしている。 | 調理師の資格を持つ職員もおり、食材は地域の青果店などから納品され、時には入居者とともに買い出しに出かけている。包丁を持ち調理に参加する方や、盛り付け、引き膳等、個々に合わせた力を発揮できる場面を支援している。日常の中で、食事作りの匂いや音など、生活感を感じられる環境を大切にしている。細やかな工夫や配慮が伝わる食事が提供されている。 | |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | お一人お一人の食事量・水分量を記録し管理を行っている。こまめな水分摂取を促し脱水には、十分注意している。又、嚥下障害のある入居者にはトロミを付けたり、食事の形態を変え提供している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 個々の能力に応じ、声かけ、介助の方法を変えている。又、必要に応じて、協力歯科へ往診を依頼している。 | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を活用し、排泄パターン・間隔の把握に努め、カンファレンス等で検討し、定期的な声かけや、誘導を行っている。トイレ内環境を整備し、自立した排泄が出来るよう努めている。 | 個別の排泄状況をチェックし、ミーティングやカンファレンスにて、失禁の減少に向けたアプローチや、排泄の自立に向けた必要な支援について、検討を行っている。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘の要因や影響を理解し、植物繊維や乳酸菌を多く含む食材の提供を心がけている。又、散歩や体操の参加を促し、自然排便を心がけている。 | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 隔日の入浴の設定はしてあるも、可能な限り状況や、希望に合わせて柔軟に対応している。又、お一人お一人に合わせ、ゆっくりとリラックスした時間の中で入浴の支援を行っている。 | 日常的に入浴準備を行っており、隔日の入浴日の設定はあるが、希望や体調、状況等に合わせ、柔軟な支援を行っている。午後からの時間帯で、希望があれば夜間の入浴にも対応している。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の体操、散歩、レクリエーション、家事の手伝い等、無理にならない様日中活動をして頂き、夜間の安眠に繋がるよう努めている。又、生活習慣や体調により静養して頂く等の支援もしている。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の処方箋にて薬の目的、副作用等把握するよう努めている。薬の変更があった際は、業務日誌に記載し職員全員が把握するよう努めている。特に眠薬については、体内動態を把握するよう努めている。 | | |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | お一人お一人の能力に合わせ、家事の手伝いをして頂いたり、生活歴や趣味を生かせるよう努めている。又、日々のレクリエーションにて気分転換を図り、楽しみを感じて頂けるよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | その日の希望にそって、戸外に出かけることは、出来ないが、ご家族の協力を得て、外出をしている。周辺への散歩へは、可能な限り出かけている。 | 介護計画の中に、日常的な散歩や、家族との旅行等を位置付けている。外出支援のための人員配置や家族との連携を図りながら、外出の機会の拡大に取り組んでいる。外食やカラオケに出かける機会も持っている。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お一人お一人の希望を大切にし、ご家族了解のもと所持されている方もおられる。所持されていない方も、預かり金よりご本人にお支払いをして頂く等の支援をしている。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望される入居者さんは、ホームの電話を利用して頂き、ご家族と連絡をとって頂いている。又、ご本人、ご家族の希望で携帯電話をお持ちの方は、自由に連絡をされている。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングには、天窓が設けられ、自然の光を採り入れ、明るい空間となっている。庭に咲いた花をテーブルに飾り季節を感じて頂く様にしている。又、対面式のキッチンからは料理をする音や匂いがあり生活感を感じて頂いている。 | リビングの食卓やソファー、畳スペースに加え、外を眺められる玄関近くの廊下にもソファーが設置され、その時々に応じた寛ぎの場所がある。内装は木の質感を感じられる落ち着いた造りとなっており、調理の際の五感刺激等、暮らしの営みを大切に捉えている。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングには、ソファーコーナーを設け、ゆっくりTV観賞ができるような配置となっている。又、畳スペースでくつろぐこともできる。通路にもソファーを設置し、外を眺められる様になっており、好きな場所で過ごせるようしている。 | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 出来るだけ安心して生活が出来るように、使い慣れた物を持って来て頂けるようご家族にお願いしている。家具の配置等も、ご本人、ご家族と相談しながら、居心地よく過ごせるよう努めている。 | 居室には洗面台が設置され、トイレ付の部屋も3室用意されている。鏡台や筆筒等の馴染みの家具の持ち込みや、ベッドの高さや寝具の選択等、個別の希望や状況を検討し、居心地良く、安心して過ごせるよう配慮されている。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物内部はバリアフリーになっており、歩行器車椅子の方も安心出来るようになっている。又、共同トイレには、可動式の手すりを配置している。 | | |